

ならはらチャレンジ！ No.20

八王子市立榎原小学校

学校運営協議会

会長 森江 晃三

～みんなとつくる、榎原小の「Wa」～

3学期は8合目

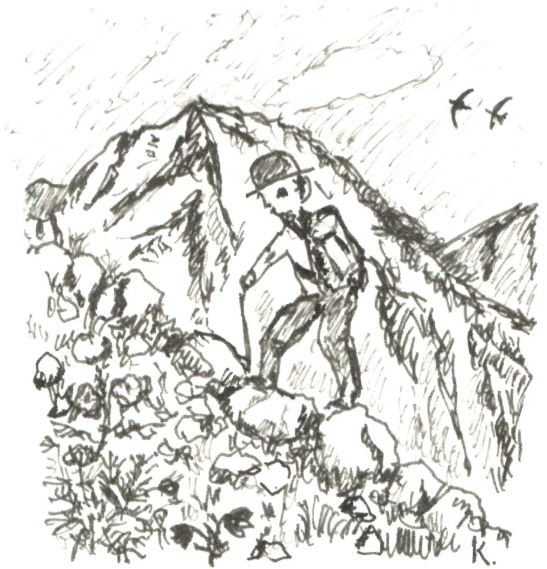
ならはらしょうがっこうがくうんきょうかいちょう もりえこうぞう
榎原小学校学運協会長 森江晃三

学校の学年の1年も、もう3学期になりました。最近では2学期制の学校もあるようですが、学校の1年間3学期というのが、古くから日本では普通だったようです。

話はかわりますが、山を登るとき、山によって1合目、2合目、3合目というように、10合目が頂上になるようにわけている山があります。この何合目というのは距離で同じになるようにわけたものではなく、山に登る大変さを考えにいれて決めているようです。皆さんは山に登ったことがあるでしょうか。八王子だったら高尾山でしょうか。でも、日本にはたくさんの山がありますし、世界にはもっと高い山がたくさんあります。

高尾山だってケーブルカーでなく歩いて登るのは大変ですし、さらに高い山に登るためには体力や訓練、装備（着るもの、靴、持ち物など）が必要です。しかし、どんな山でも登るのは一歩一歩足を前に進めていかなければなりません。そして、頂上に登ればむこうには、きっともっと高い山、もっと険しい山があるかもしれません。

学年で2月になろうとするこの頃は山の高さでいえば8合目、9合目でしょうか。勉強もケーブルカーのようなものはありません。一つ一つ前に進んでいきましょう。頂上では、すばらしい景色が見られるでしょう。そしてまた、新しい学年という新しい山に挑戦してください。新しい山では、美しい花や鳥や空がまつように、新しい教科や教科書、勉強などがまっていることでしょう。



「けわしくて一歩一歩」(イラスト: 森江晃三)



1月18日(土)学校公開

全校児童が低学年と高学年に分かれて、いじめ予防の道徳授業「HEROになろう」を受講。たくさんの保護者・地域の方が参観し、一緒に学びました。

裏面へ➡

榎原小学校で BE A HERO プロジェクト【HEROになろう】開催！

2019年8月31日に学運協とPTAで開催した研修会「いじめ予防プログラム トリプル・チェンジ 入門編」に講師として榎原小に来てくださった、子どもの発達科学研究所の主席研究員であり「いじめの科学」の著者である和久田先生と、IWA JAPANの木村先生、新保先生が、低学年と高学年にそれぞれ45分間の授業をしてくださいました。

「正しいことはカッコいい。」正しいことをするために「行動を変える。」「行動を変えてヒーローになろう！
Make a change, Be a HERO!」 HERO になるための4つのキーワードはみんなの安全(体の安全、心の安全)を守るためにとても大切。全員が大切な存在。だから、全員の安全が一番大事。

★4つのエピソードについてそれぞれ考えをめぐらせ、**4つのキーワード**を学びました。

H : HELP ヘルプ (助けを求める勇気を持つ)

E : EMPATHY エンパシー (相手の気持ちに共感する)

R : RESPECT リスペクト (相手を自分と同じように大切に扱う、尊重する)

O : OPEN-MIND オープンマインド (広い心で、みんなを受け入れる)



通常は60分～90分で行う授業内容を45分間にまとめてくださり駆け足での授業になりましたが、低学年は教室に帰ってから、高学年は時間内に、それぞれのワークシートに「**行動宣言**」を書くことができました。代表児童の「行動宣言」が校舎2階のパソコン室前廊下に掲示してあります。

同日開催された学校運営協議会での振り返りでは、1回の授業だけでは子供たちの中には浸透していかないのでは、学校や家庭や地域で協力し、繰り返し子供たちに教えていくことが必要だと話し合いました。榎原小学校を中心に、子供も大人も皆が同じHEROの基準に立ち、いじめの起きにくい学校、いじめのない地域社会をつくっていかれたらと、思いを一つにしました。

4時間目は体育館から図書室に移動し、講師の先生方と参観を終えた保護者・地域の皆さんとの座談会が行われました。「どんな理由であったとしても、いじめは絶対にいけないこと」「そこに**力の差と(加害者側の)考え方の間違えの両方**がそろっている事例では、当事者同士での解決はできないので、すぐに大人が介入する必要があること」



「子供に大人が見本となって教えなければいけない3つのスキルは**①あいさつスキル②報告スキル③依頼スキル**⇒①あいさつし合えば気持ちいい。②報告すれば、よかったね！がんばったね！とほめられる。③困っています、教えてください、助けてください、と依頼をすれば、ちゃんと助けてもらえる。という体験の積み重ねで、3つのスキルを獲得していく。そのためには、どんなささいなことでも(そもそも子供にはささいかどうかは判断できないので)、大人は、一度は手を止め耳を傾け受けとめること」そして「子供から信頼を勝ち得ること」が大切であると学びました。